

平成24年度 常滑東小学校学校アンケート結果

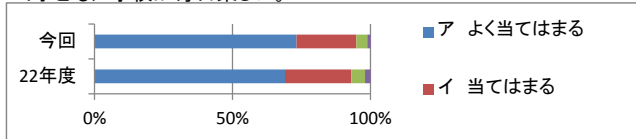
(24年7月実施。対比較22年度6月実施分)

< >内は回答者。回答総数、児童681人、保護者648人、教師24人

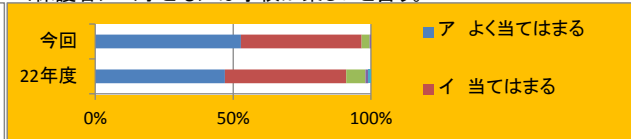
今回の集計にあたっては、原則2年前との比較検証を行った。

1 学校の楽しさ度

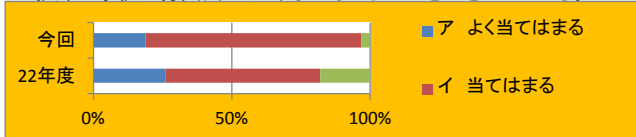
<子ども>学校が毎日楽しい。



<保護者><子ども>は学校が楽しいと言う。



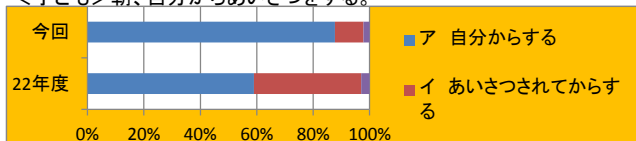
<教師>学校の雰囲気はよく、子どもたちは生き生きとしている。



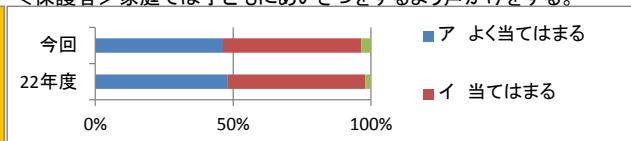
※高い割合で学校への「楽しさ」が表れている。
目に見えない「雰囲気」の醸成も重要である。
子どもにとって「行きたい学校」、保護者にとって「行かせたくなる学校」の継続した取り組みを行いたい。

2 あいさつの様子は？

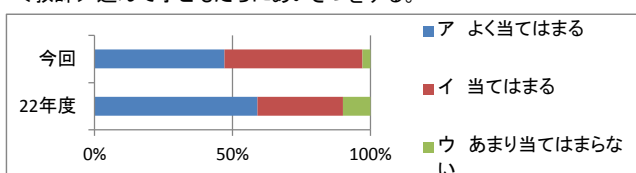
<子ども>朝、自分からあいさつをする。



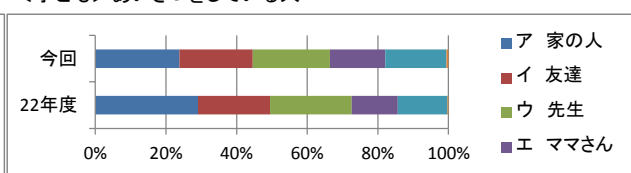
<保護者>家庭では子どもにあいさつをするよう声かけをする。



<教師>進んで子どもたちにあいさつをする。

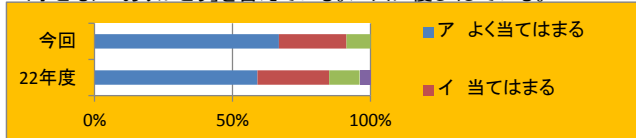


<子ども>あいさつをしている人

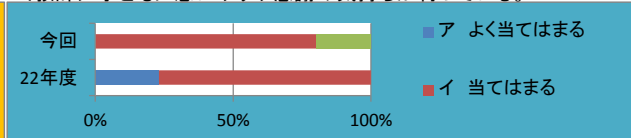


3 思いやり・感謝の心を

<子ども>「ありがとう」を言えている。／人に優しくしている。

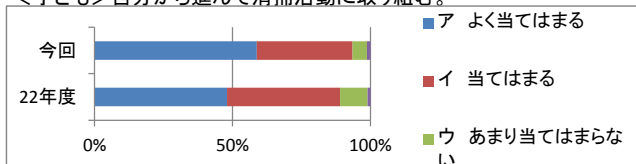


<教師>子どもに思いやりや感謝の気持ちが育っている。

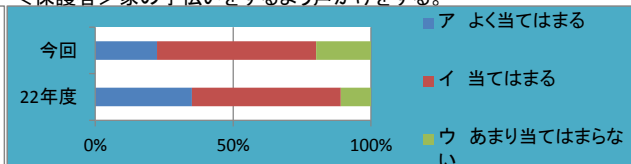


4 奉仕の心・自主性を

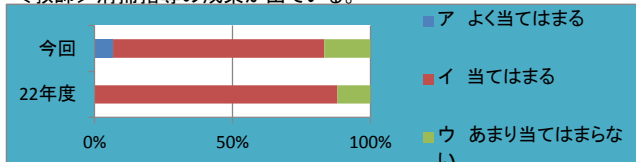
<子ども>自分から進んで清掃活動に取り組む。



<保護者>家の手伝いをするよう声かけをする。



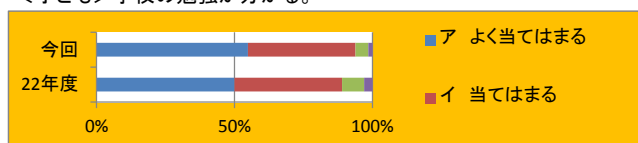
<教師>清掃指導の成果が出ている。



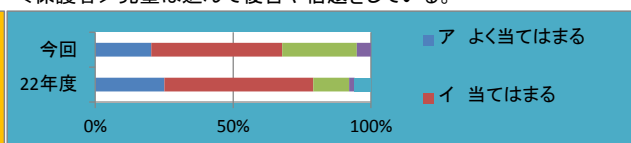
※自分からあいさつしている子どもの割合が高くなっている。
保護司・更生保護女性会等青少協の方々のあいさつ運動や児童会総務委員会のあいさつ運動の取り組みが成果を示している。
思いやりや自主性の醸成については、教師や保護者と子どもとの間に開きを感じられる。子どもの姿をきちんと捉えて、行動・行為をほめて伸ばしていく意識が大人に必要である。

5 わかる喜びを

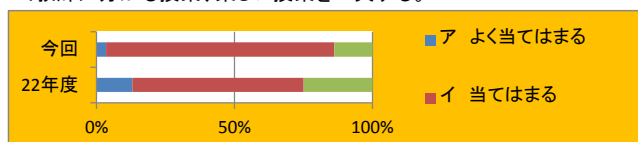
<子ども>学校の勉強が分かる。



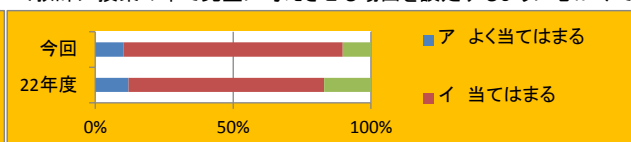
<保護者>児童は進んで復習や宿題をしている。



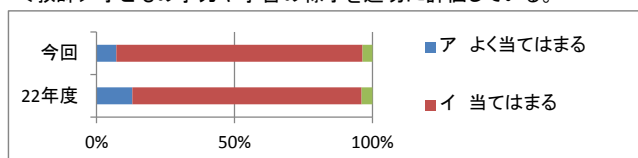
<教師>分かる授業、楽しい授業を工夫する。



<教師>授業の中で児童に考えさせる場面を設定するように心がけている。



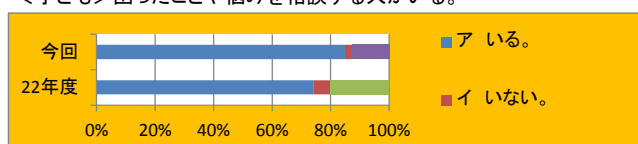
<教師>子どもの学力や学習の様子を適切に評価している。



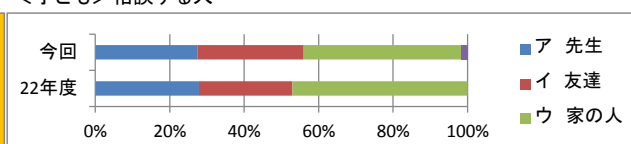
※学指導要領の全面実施の前後の比較となる。
授業改善が進みつつある中で、教師の創意工夫が楽しい・わかる授業へとつながってる。
反面、家庭学習の定着が気になるところである。家庭間の意識格差を感じる。
具体的な形成評価や評価基準の改善を充実させたい。

6 子どもに寄り添う

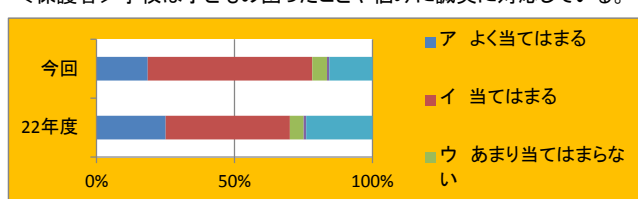
<子ども>困ったことや悩みを相談する人がある。



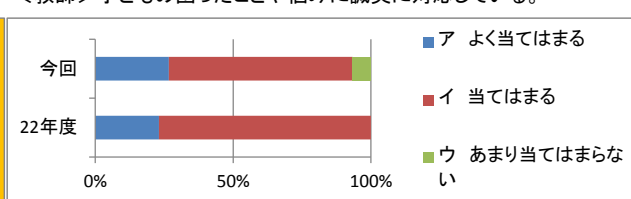
<子ども>相談する人



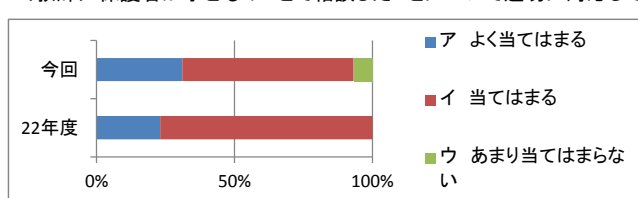
<保護者>学校は子どもの困ったことや悩みに誠実に対応している。



<教師>子どもの困ったことや悩みに誠実に対応している。

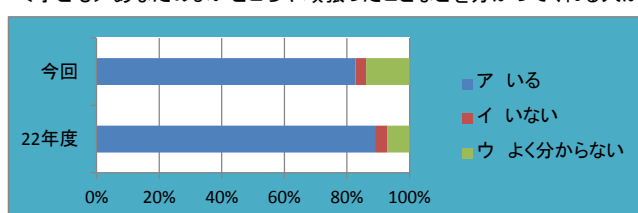


<教師>保護者が子どものことで相談したことについて適切に対応している。

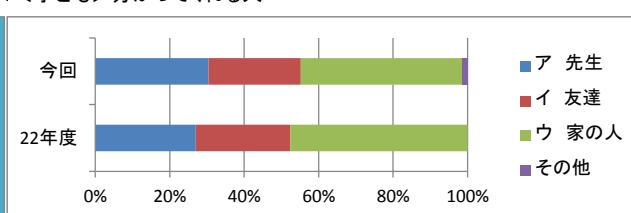


※子どもに寄り添う教師集団を評価されている。やさしいことだけが、子ども寄り添うことではない、という思いがあり、教師自身の自己効力に結びついていないのが残念である。
相談相手としての「家の人」が低下しているのが気になるところである。家庭こそが子どもの心の拠り所であってほしい。児童には、子どもなりの悩み・不安を真摯に向き合い、解決していく力をつけさせたい。

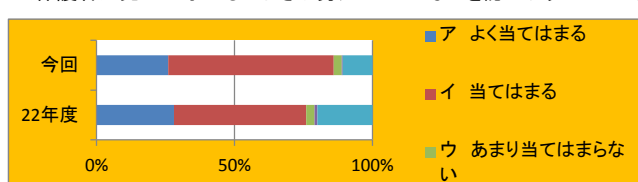
<子ども>あなたのよいところや頑張ったことなどを分かってくれる人がいる



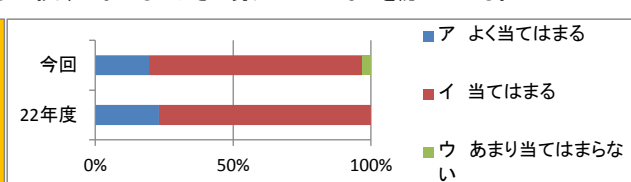
<子ども>分かってくれる人



<保護者>先生は子どものよさや努力したことなどを認めようとしている



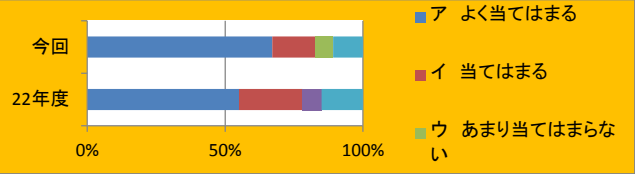
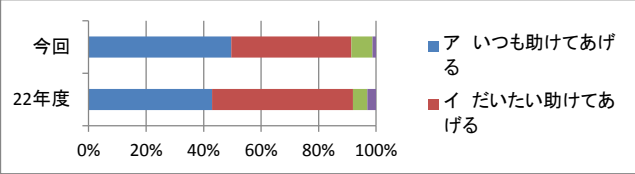
<教師>子どものよさや努力したことなどを認めている。



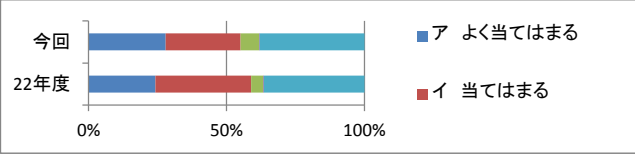
7 いじめのない学校へ

友達が困っているのを見たとき、助けてあげる。

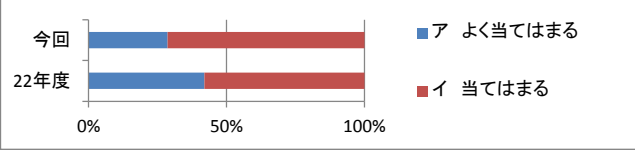
<子ども> あなたのクラスは、仲間はずれやいじめなどを許さないクラスである。



<保護者> 先生は仲間はずれやいじめなどを許さない学級作りに取り組んでいる。



<教師> 仲間はずれやいじめなどを許さない学級作りに取り組んでいる。



※現在、いじめ問題は教育の喫緊の課題である。

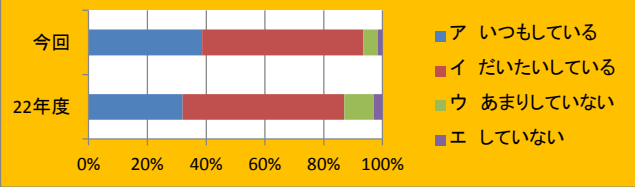
いじめは、ひがしでもどの学級でも起こりうる。いじめを許さない学級作りを評価していただいているが、継続的・体系的な「心の教育」が望まれる。
学校だけの問題、学校のみで解決できる問題ではない。子どもを取り巻く環境をよりよくしていく必要がある。学校の取り組み他、子どもは地域や社会の影響も受けやすいもの。学校・家庭・地域で一体とした対応が必要である。

8 規律ある学校を

<子ども> 守っている学校の決まり(守れている子の割合) ※一部23年度比較

	ア 廊下を静かに歩く	イ 名札をつける	ク 授業中に勝手な話をしない	エ 忘れ物をしない	オ トイレのスリッパをそろえる
22年度	43	72	42	45	61
今回	60.2	89.1	59.2	56.1	81.9
	カ 朝、集合場所に遅れない	キ 一列歩行している	ク 通学路を歩いている	ケ 登下校時迷惑をかけない	コ 登下校時寄り道をしない
23年度	80.5	46.3	88.9	91.5	84.5
今回	82.2	59.3	91.8	93.4	91.2
	サ チャイム着席をする	シ 不要品は持っていない	ス よその教室にははいらない	セ ベランダには出ない	ソ 職員室入室時のあいさつ
23年度	84.4	80.5	82.5	72.5	93.5
今回	86.9	87.5	91.5	88	94.4
	タ 返事をして立つ	チ 廊下などで暴れない	ツ ヘルメット着用	テ 2人乗りをしない	ト お客さんへのあいさつ
23年度	61.9	67.4	57.9	71.5	72.7
今回	75	77.5	63.1	63.1	77.7
	ナ 南館12階廊下は通らない	ニ 集会の話を聞く	ヌ 本棚の本を戻す		
22年度					
今回	88.4	79.7	94.9		

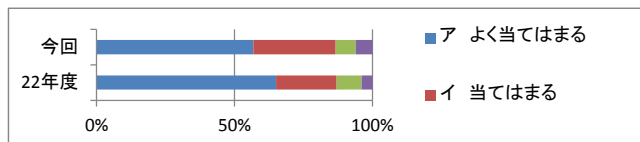
<子ども> よく考えて話したり、よく考えて行動するようにしている。



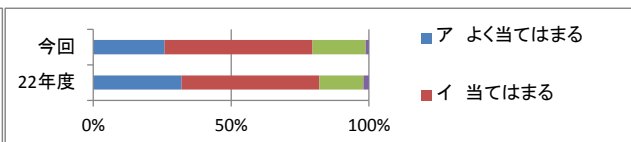
※「東っ子のマナーブック」を策定し、2年目の運用となっている。共通理解のもと、生活指導の充実を図っている成果が出てきている。さらに具体的な対応を考えたい。
生活指導は、家庭との連携が重要である。家庭の指導の「多様性」の振り回されることなく、「大人」の共通理解を進めたい。特に学校外での自転車の乗り方等は家庭での指導が不可欠である。今後も一体とした生活指導をお願いしていく。

9 家庭では

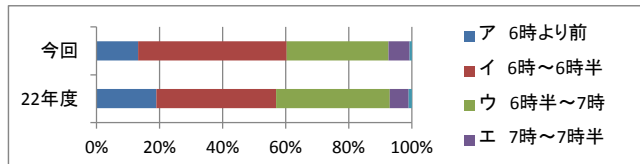
<子ども>家の人と学校のことや友達のことを話す。



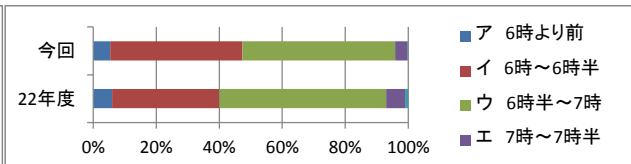
<保護者>子どもは、学校のことや友達のことを話す。



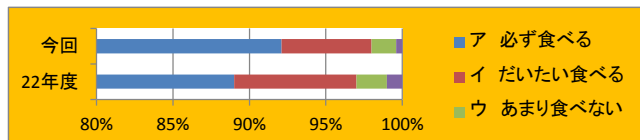
起床時刻(月～金) <子ども>



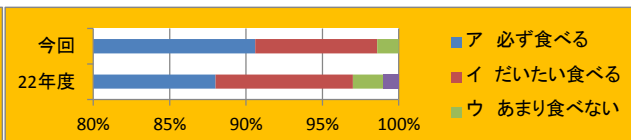
<保護者>



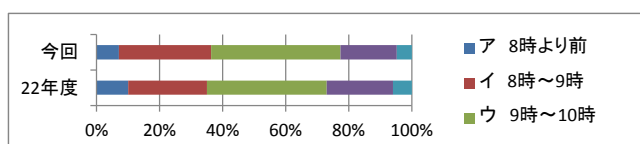
朝食 <子ども>



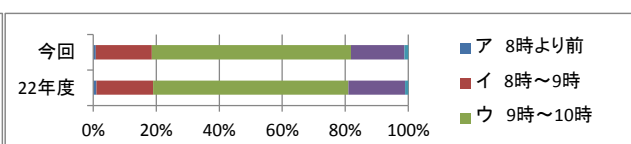
<保護者>



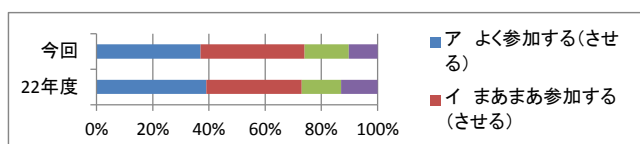
就寝時刻(月～金) <子ども>



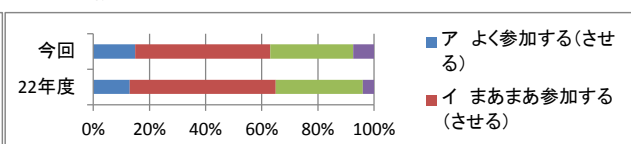
<保護者>



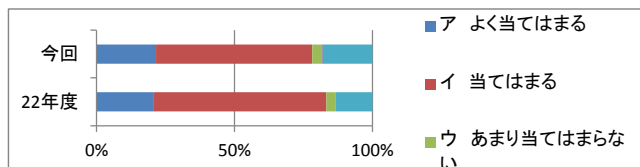
地域の行事への参加 <子ども>



<保護者>



学校は保護者や地域と協力して子どもを育てようと努力している。<保護者>

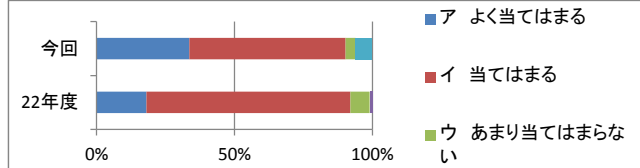


※「早寝・早起き・朝ご飯」の定着が見られる。
家庭での基本的生活習慣への依存度は高い。家庭での意識の違いは重要である。
「地域の中の学校」という視点は今後も継続していく。

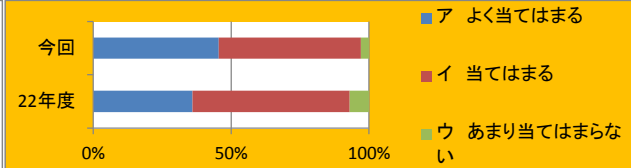
10 学校では

学校は、授業や行事などの教育活動の様子や情報をわかりやすく伝えている。

<保護者>

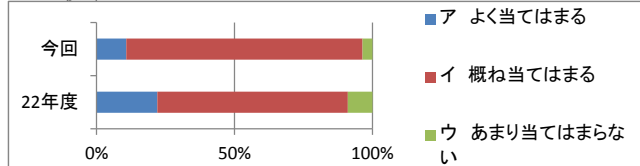


<教師>



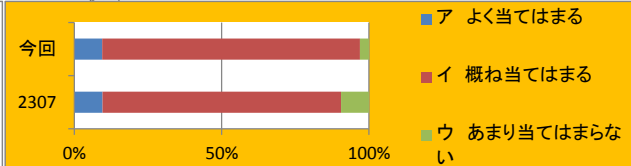
学校の教育目標に基づいた学年経営、学級経営を行っている。

<教師>



担当している校務分掌を実施するにあたり、教育目標の達成を意識している。

<教師>



※まだまだ、学校への理解を得る方策が求められている。学校広報は、校長の重要な責務である。今後も学校だよりやホームページにより学校広報に努めていく。
学校の教育目標特に本年度の重点努力目標については、全教職員が一丸となってその具現化に努める。